

DXで企業価値の飛躍的向上を目指します。

味の素グループは、グローバル食品企業トップ10クラスのパフォーマンスを達成するため、デジタルトランスフォーメーション(DX)を通じたイノベーション創造や業務効率化を推進しています。今後のデジタル戦略や目指す姿について、2019年6月にChief Digital Officer(CDO)に就任した福士から説明します。

時代の要請を上回るスピードで変革を続けるために

近年のデジタル技術の進歩は目覚ましく、お客様をはじめとするステークホルダーからの期待はますます多様化かつ高度化しています。味の素グループは、これからもステークホルダーから期待され、愛される企業であり続けるために、時代の要請を上回るスピードで変革し続けることに挑戦します。そのために、最新のデジタル技術をフルに活用し、当社グループ独自の新たな価値の創造を加速することで、企業価値を飛躍的に高めます。



代表取締役 副社長執行役員
Chief Digital Officer

福士 博司

CDOの役割

私はCDOとしてDXを推進します。ステークホルダーのニーズを的確に把握しながら、デジタル技術活用で生産性と競争力を向上させ、グローバル食品企業トップ10クラス入りに向け新たな成長をけん引します。このような中長期

的なDXビジョンの達成のため、「DXポリシー」を設定し、「DX推進委員会」を設置しました。また、外部機関とのネットワーク構築にも着手しています。

ビジネス変革とオペレーション変革のプラットフォーム

DX推進のため、ビジネス変革とオペレーション変革の2つのプラットフォームを設定します。

(1) ビジネス変革プラットフォームとは

既存事業組織にはない機能や弱い機能をDXで強化しながら、最終的には事業そのものを変革していくプラットフォームです。ポイントは、事業の仕組みや組織のあり方を顧客の志向変化に合わせて、スピーディーに変えることであり、デジタル技術・システムは、その変革を加速させるために用います。重要と考えている変革の要素は、重点事業へのフォーカス、グローバルな事業運営、Eコマースの推進、スモールマスマーケティング、パーソナライゼーション等であり、それぞれに最適なデジタル技術・システムを事業環境、ローカルティ等を考慮して導入していきます。変革の進捗をステージゲートを設けて全体的にチェックし、変革目標、業績目標をクリアしながら、グローバル食品企業トップ10クラス入りを目指します。



(2) オペレーション変革プラットフォームとは

事業組織の変革を目指すビジネス変革プラットフォームに対して、オペレーション変革プラットフォームでは、オペレーション(働き方)そのものを変革します。

コーポレート、マーケティング、研究、生産、営業等、部門ごとに、あるいは地域ごとにオペレーションの内容は当然異なりますが、味の素グループとして共有できる変革KPI(ROA、一人当たりの生産性等)を定め、全ての部門や地域が設定さ

れたKPIを達成することを目指します。

そのための最初のステージとしてオペレーショナル・エクセレンス(OE:業務の生産性向上戦略)プログラムを導入します。このOEによる“世界最高水準のオペレーション”の土台に立った上で、デジタル技術・システムである、IoT、AI(人工知能)、ビッグデータ活用等を順次導入し、ビジネス変革とオペレーション変革を同期させながら、DXを推進していきます。

味の素グループの競争力は、「個人／組織／ビジネスの共成長」にあり

味の素グループの競争力は、デジタル技術そのものの開発力ではなく、個人と組織が作り出す「知の集約」にあり、「知の集約」は、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、個人目標や組織目標等、それぞれの成果を共有化するプロセスの中で実現できます。

個人は組織の成長と発展に貢献し、組織は個人の成長を助け、結果としてのビジネス成長が新たな機会を個人と

組織にもたらす「個人／組織／ビジネスの共成長モデル」。この共成長モデルを全世界の味の素グループで展開し、その「知の集約」を高速化、進化したデジタル技術を駆使して共有化し、外部のデジタルデータと組み合わせることで、当社グループの企業価値は飛躍的なレベルまで高めることができると確信しています。